

大阪市大 奥山 春彦  
○藤井富美子  
中挾 和子

ドライクリーニングによる洗浄の一端を解明するために、この研究をおこなった。実験には、アクリル繊維布を標準人工汚染布作製に準じて汚染したものを使用した。洗液にはパークロルエチレンを用い、それにソルノン、エロゾルOTなどの界面活性剤と若干の水を加えた。洗浄はラウンダーオメーターにより、洗浴には汚染布と同一の大きさの白布を添加して洗浄効率と白布の灰色化率をもとめた。洗液中に活性剤を加えると洗浄効率は増加するが、ある濃度以上では一定となった。灰色化率は逆に活性剤濃度が増加するに従い低下するが、これもある濃度以上になると一定になる。これらの研究結果を解析するために、さらに沈降管による沈降速度を測定し、それから非水溶液中での固体粒子の分散に及ぼす界面活性剤の濃度、水の影響などを調査した。また洗浄後の液の吸光度を測定し、洗浄液中の界面活性剤の固体分散作用と再沈着防止効果の関係を明らかにし、また水溶性污垢除去のために加えられる水の固体污垢分散に対する影響をも検討した。